東京大学　海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2016 年　9月　7日

東京大学での所属学部・研究科等：	教育学部	学年（プログラム開始時）：	学部3
参加プログラム：	第二回夏季短期留学プログラム SNU-UT Summer Joint Program	派遣先大学：	ソウル大学

卒業・修了後の就職（希望）先：

✓	1. 研究職		2. 専門職（医師・法曹・会計士等
✓	3. 公務員		4. 非営利団体
✓	5. 民間企業（業界：教育 ）		6. 起業
	7. その他（　　）		

派遣先大学の概要

ソウル大学(SNU：Seoul National University)
韓国の大学内でもトップクラスを誇る。16の単科大学から成る（韓国の大学は学部制をとっておらず、「単科大学の集合体」のような構造を取っている。最近は学科が統合され、単科大学の下部に学部が組織されることもある）。かつて京城帝国大学が日本支配下の京城（現在のソウル）に設立されていたが、敗戦時に解体されているので現在のソウル大学との法的なつながりはない。しかし、理事会や施設等が旧京城帝大関連のものであるなど、両者の関連性は深い。

参加した動機

教科書問題に興味がありました。日韓両国で語られる韓国/日本への歴史観がどのような風土で形成され、どのような人を媒体に伝えられ、なぜ相手国に伝わらないのか、を調べてみたかったからです。また韓国と日本の教育には共通点が多く（受験熱が盛ん、早期教育に力を入れている、特別支援教育の歴史が似ているなど）、共通点・相違点を洗い出し、日本の抱える問題の解決の糧となるかなと考えました。比較教育学では欧米型の教育を扱うことが多いので、類似モデルである韓国には以前から興味がありました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

参加動機には学科で学んだことを強く打ち出したような気がします。プログラムの概要は4月上旬には把握していて、本格的に志望書を書き始めたのは5月中旬のギリギリの時期です。その間に資格や成績の整理をしていました。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

ビザの申請は特にありませんでした。

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

1995年（平成7年）以降に生まれた方は、おたふくかぜの予防接種を受けていない可能性があります。大学によっては入寮の際に予防接種を義務づけているところもあるので注意が必要です。また、夏休み直前のトラベルチェック（東大内の海外渡航者用の医療診断サービス）は大変混雑しているので、早めの予約・受診をお勧めします。日本人は旅行中におなかを壊しやすいので、普段元気な人でもどの国にいくにしても胃腸薬と下痢止めを持っていくことをお勧めします。

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

東京大学指定のOSSMAに加入いたしました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

夏季短期留学プログラムは8月中に全日程が終了するので、集中講義などを入れさえしなければ学部の授業に支障はなかったです（教職取得予定の方は集中講義を入れないことをお勧めします）。

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）

出発前に特に語学の勉強はしませんでした。当たり前ですが日常生活では、韓国で英語が喋れる人に会うのはめったにないので、簡単な会話文ぐらいは事前に勉強しておいた方がいいと思います。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

寮には日用品がないのでトイレットペーパーや洗剤など、こだわりがあれば持参すれば良いと思います。今年度はソウルラウンドでグループ発表等はなかったですが、念のためパソコンは持って行ったほうがいいでしょう。日傘やサングラスなど暑さ対策はしっかりとしておきましょう。
プログラムに参加している海外の学生は日本に大変興味を持っています。彼らの質問に答えられるよう「一般教養」を身に着けておくことをお勧めします。体感ですが、歴史や社会事情（結婚、教育、就活など）、伝統、文化など主に人文学系に関する質問が多かったような気がします。専門が始まっている生徒は渡航国との比較検討のため、自分の興味のある分野について、韓国ではどのような状況にあるか調べてみるのも良いでしょう。

学習・研究について

①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等）

東京ラウンドでは先生からの講義の後、質疑応答、グループでディスカッションを行いました。ソウルラウンドではディスカッションは無かったです。予習・復習等は特に課されませんでしたが、事前にスライドは配布されるので目を通しておく方がよいと思います。個人的には、ソウルの政党政治についての講義が、自分の関心のあるシティズンシップ教育を再考する上でとても良い機会になる講義でした。

②学習・研究面でのアドバイス

講義だけでなく実際に関連する施設や地域に、(フィールドトリップで設定されているかどうかにかかわらず)足を運ぶべきだと思います。在日朝鮮人の方々のお話を新大久保で聞く機会があったのですが、文献や資料で見るよりも実際にお話を聞く方が迫力が感じられてよかったです。またプログラム自体も意図的に構成されたものであるので、必ず反対する意見、対抗する考えも視野に入れた内容吟味をすることをお勧めします。
理系の方々は施設見学が会社の宣伝施設に限定されることが多いので、興味のある分野のフィールドとッリップでは積極的に質問をするべきだと思います(そうしないと会社の押しとか強みなど表面的なことしか知ることができないと思うので)。
また、似たような研究分野を持つSNUの学生を見つけて日韓の比較をすると、固定概念の打破や身近なところの問題艇などができて大変有意義なのでぜひ取り組んでほしいです。

③語学面での苦労・アドバイスなど

ソウル市街地では韓国語のみが使われるので注意。英語の使用率は非常に悪い。逆に日本語の方が通じる。英語は専門用語が多いので、全部聞き取れなくても落ち込む必要はないと思います。

生活について

①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）

宿泊先はSNUの寮でした。プログラム内で指定されているので自分で部屋を探したりする必要はありません。二人一部屋、シャワートイレ付き、布団やまくら付き、エアコン完備でした。また一階と七階にラウンドリールームがあり、無料で洗濯機と乾燥機が回せます。それ以外の備品、例えばトイレットペーパーやティッシュ、洗剤などは現地で買うか、日本から持ってくることになります。また山奥なのでwifiがつながりにくいので、どうしても連絡手段が欲しい人はwifiルーターをレンタルすることをお勧めします(プリペイド式だと使用できなかった参加者がいたので)。また宿泊先は健康診断と誓約書が必要です。風疹・麻疹、結核の検査or胸囲レントゲン検査は、学校で毎年行っている健康診断で受信可能なので受けておくことをお勧めします。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）

暑いです。今年は特に暑いと現地の人が言ってました。湿度も高く、体感的には日本の夏とあまり変わらない気がします。大学周辺はコンビニとパン屋さん、学食があります。が、とにかく山のなので夕食の際は麓の町まで下りていました。大学周辺の交通機関はバスのみです。ソウル市内の交通機関は電子化がとても進んでおり、電子マネーの利用の方がとにかく安いのでカードの購入をお勧めします（カードはコンビニや駅の自販機で買えます）。食事は当たり前ですが辛いです。そしてとにかく量が多いです。現地の人も平気で残しているので、無理して食べる必要はないと思います。私は海外に行くとよく日本の食事が恋しくなるのですが、韓国ではそのようなことはありませんでした。お金はクレジットカードが大変普及していて皆さん使っています。特典も多いので現金は必要最低限に抑えてカード利用をお勧めしておきます。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）

ソウル市内の治安は大変良いです。日付をまたぐ頃でも町には大勢人がいます。ですが、当然のことながら嫌日家が活動しているような地域（例えば日本大使館前とか大統領府の近くとかですかね）には近づかないようにしましょう。また、今年は偶然プログラム1日目が8月15日（現地では建国記念日）だったので反政府団体の政治デモが李舜臣像の前で行われていました（反日的なスピーチもありましたが、多くはセウォル号沈没事件や雇用問題で政府を糾弾するものでした）。そういう場所ではあまり日本語をしゃべらない方がいいみたいです。警察も多く出動していて物々しい雰囲気でした。
医療関係は受診していません。薬は大学内のコンビニに売ってますが、なるべく日本で用意することをお勧めします。熱中症と胃もたれ・食あたりには気をつけましょう。

④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）

航空賃（約5万円。トラブルが起きて変更したためこの値段ですが、実際は早めに予約すれば3万円くらいで抑えられると思います。）
授業料・教科書代（無料）
宿泊費（約2万円）
食費・交通費（約2万円。外食が多い。交通機関をよく利用するのでこの値段）
お土産をたくさん買わなければ、向こうには五万円分くらい持っていけば余ると思います。

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）

JASSO(七万円。プログラム概要の書類に一緒に明記されていました。)

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）

週末は梨大や新村にいって韓国の大学を見学したほか、戦争記念館に行ってきました。「イデオロギーと歴史」の関係性が明確に打ち出されていて勉強になります。日本の靖国神社に似ていますが、施設がかなり大きいので時間に余裕を持っていくことをお勧めします。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）

日本語、英語のできる韓国人のTAさんが付いていたので、大抵のトラブルは対処していただけると思います。

②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）

WiFiはありましたが遅いです。いろいろ施設はあるのでしょうがメインの施設から遠いので把握しきれませんでした。食堂だけは寮から近かったです。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

特に文化摩擦について言えることですが、無意識に自国のアイデンティティに依拠した論調・考えが思わぬ摩擦を生むことが多々ありました。加えて、当たり前ですがある一定の行動の根拠が複数の要素にまたがっていることを、特に日韓の間で起きている問題では認識するべきだと思います。グループ内のある生徒が「慰安婦像の移転に反対している」と教えてくれたのですが、その理由が「日本が嫌いだから」「日本は歴史認識の反省をすべきで慰安婦像の移転は歴史の歪曲につながるから」といったものではなく、「政府主導の解決策では国民の納得する解決策にはならないから」というもので、彼はいたって親日家でした。しかし、日本のマスコミは運動者側を「反日」と一つのフレイムで捉えてしまっており、私たちはそれを無批判に受容する状況に現状立っていると思います。歴史認識も同じで、根拠とする資料や言説は、ある一面では全て「正しい」のであり、私たちはその「正しさ」がより多くの人が納得する形へと昇華させていく使命があると思います。一つの問題が一つの答えにつながるのではなく、社会の中で多くの人が「正しい」と思っている「真実」は実は多くの人が納得する形へと昇華された「合議」なのであることを忘れてはいけないと思います。
加えてこの「合議」に至るまで、人を合理的な論争へと誘い「正しい」とされる知識を付与するのが教育の役割であり、「正しさ」を話し合う場が政治の役割なのかと思います。今後、社会的な問題を解決するにあたってこの二つの要素が以前より密接な関係を結び大きな役割を担うことになる、と考えています。

②参加後の予定

8月の後半からインンターンに参加しています。進路についてはまだ未定です。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

韓国は「近くて遠い国」とよく形容されますが、まさにその通りです。加えて「知ったふり」をしているせいで、ますます現代の韓国像が見えにくくなっています。プログラムの参加を通じて、韓国との相違点・共通点を知れただけでなく、韓国に対する日本像、韓国から見た日本像というものも浮き彫りとなりました。他人を理解するためには、まず他人の懐に飛び込んでみることが大切一是非皆さん独自の韓国像を築き上げてください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

【韓国の教育についての参考資料】
韓国のグローバル人材育成力：超競争社会の真実 / 岩渕秀樹著
韓国の歴史教育：皇国臣民教育から歴史教科書問題まで / 金漢宗著；國分麻里，金玹辰訳
日韓歴史認識問題とは何か：歴史教科書・「慰安婦」・ポピュリズム / 木村幹著
【他】
地球の歩きかた

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学　海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2016年9月21日

東京大学での所属学部・研究科等：	教養学部	学年（プログラム開始時）：	学部2
参加プログラム：	ソウル大学・東京大学合同サマープログラム	派遣先大学：	ソウル大学

卒業・修了後の就職（希望）先：

	1. 研究職		2. 専門職（医師・法曹・会計士等
✓	3. 公務員		4. 非営利団体
✓	5. 民間企業（業界：未定　）		6. 起業
	7. その他（　　）		

派遣先大学の概要

韓国最高峰の国立大学、ソウル大学。ソウル中心部からそう遠くない距離に位置し、一つの巨大なキャンパスに学部の施設も院の施設も寮も民間の飲食店等も入っており、非常に良い環境だと感じた。広いキャンパス内にはスクールバスや一般の国営バスが運行しており、便利であった。
実際に使用した教室や寮はきれいで設備も充実していた。
参加したソウル大学の学生によると、芸術関係の学部学科もあるなど、東京大学より幅広い分野を学ぶことのできる大学であった。
部活/サークルやアルバイトなど、学生の日常生活は東京大学の学生と非常に似ていた。
教員の講義はレベルが高く、TAの方のサポートは丁寧で、ありがたかった。

参加した動機

海外の同じ年代の学生と交流し、彼らの考えに触れ、新しい発見があればと思って参加した。政治的には少々問題があり文化的には昔も今も強いつながりがある韓国。隣国でありながら、私の知らないことも多く、興味があった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

大学から求められる書類にはそれぞれ提出期限があるので注意すべきだ。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

ビザは不要であった。

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

さほど多くなく、最低限の確認というような感じで、面倒には感じなかった。

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

ossmaの必要性は疑わしく思う。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

単位認定はなく、履修という形でもなかった。

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）

特に準備はしなかったが、自分でもちゃんとついていくことができた。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

生活用品はソウルでも買うことができるので、忘れても大丈夫だった。

学習・研究について

①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等）

午前中に様々な分野の方を招いて講義、午後はフィールドワークという形であった。
両国の国会をおとずれ与党の要人の話を伺うなど、なかなか経験できないことができた。

②学習・研究面でのアドバイス

事前の準備は必要ないので、講義を集中して受け、よく考えることが重要だと思う。

③語学面での苦労・アドバイス等

英語力不足で困ったというようなことはなかったが、韓国語が全く分からず街中で時々困ったので、表音くらいはわかるようにして行ったらよかったかと思っている。

生活について

①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）

ソウル大学の寮に宿泊した。部屋はきれいで、洗濯機は使用自由で便利であった。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）

例年は東京の方が暑いらしいが、今年はソウルの方が暑く、大変であった。ソウル市内は地下鉄とバスが発達し、それが両方国営のため非常に安価で便利であった。ソウル大学は敷地が広いため、無料のスクールバスが巡回し、一般のバスも乗り入れていた。ソウル大学の学生が連日様々な韓国料理に連れて行ってくれ、楽しかったしもちろんおいしかった。カードも持っていったが、主に現金を使用していた。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）

治安は基本的に良く、日本よりホームレスが多いくらいしか感じなかった。両国の学生と遊ぶのが楽しいが、体調を崩さないよう、無理はしないことを心掛けた。実際に健康を維持できたので医療機関の事情はわからなかった。

④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）

航空賃38000円程。食費（一回）、朝250～500円程、昼500～800円程、夜800～1200円程。交通費4000円程。

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）

なし

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）

週末は、東京からの学生と観光やショッピングに出かけ、夜にソウル大学の学生と会って遊んだ。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）

TAの方は日本語が使え、生活での相談もしやすかった。体調などを気遣っていただき、ありがたかった。

②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）

寮に近い食堂は朝食によく使用した。安価に栄養がとれ、慣れない土地での体調管理に役立った。
スポーツ施設は開放されているものがあったが、時間が取れず使えなかった。
ネット環境はあまり整備されているように感じなかった。
図書館は使用できるかわからなかった。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

両国の教授陣による講義もさることながら、様々な人といろいろな会話や議論ができたことが自分にとって最も良い経験になった。「近くて遠い国」と呼ばれた韓国に行き韓国人とともに過ごし、親近感と違和感を同時に感じた。外から日本を見ることができた。これらは旅行では得られない経験だったと思う。

②参加後の予定

この経験を生かして自分の興味のある分野を学んで将来のことも考えていきたい。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

躊躇せずぜひ様々なものに挑戦して欲しいと思う。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

The University of Tokyo Study Abroad/Student Exchange Program Report Form
(for programs from a week to 3 months)

Date: 9/20/2016

Faculty/Graduate School at UTokyo:	Graduate School of Public Policy	Year at the time of Study Abroad	M2
Program Attended:	SNU-Utokyo Joint Summer Program	Host University:	SNU / Utokyo

Occupation after graduation (intended):

	1. Research
	2. Specialist (Medical・Judiciary・Accountant)
✓	3. Civil Service
	4. NPO
	5. Private sector (Type of industry:)
	6. Entrepreneurship
	7. Others ( )

Outline of the receiving institution overseas

Reason why you decided to participate

This programme was a good opportunity to meet students from across Utokyo who had a more global mindset, and SNU students from different faculties. It was also a chance to experience a younger perspective of Seoul. In particular, as one of the few Masters level students in the programme, I felt that I would be able to facilitate learning and discussions among the students.

Preparation for the program

(1) Application process (please give any advice on dealing with the application process)

The application process can be very complicated for non-Japanese students. I hope that more simplified information can be given to international students in English, seeing that the working language of the programme is meant to be English too.

(2) Visa application (type of visa, where to apply, processing time, any advice on visa application)

N/A

(3) Medical check-ups (health check-ups before departure, inoculations, etc.)

International students should be mindful that their home health documents should be with them, to verify previous vaccinations.

(4) Insurance (information about insurance for travel/studying abroad purchased)

Complicated process of application and payment, but no problems afterwards.

(5) Procedures required by your Faculty/Graduate School (any information about course registration, credits, exams, submission of dissertations etc)

N/A
(6) Language preparation (language level before the program, lessons etc.)
Although I already speak Korean, my Japanese coursemates told me that they would appreciate some Korean language lessons.
(7) Items which should be taken with you from Japan and any other advice on things which should be done before leaving Japan.
N/A
Information on the academic/research program
(1) Outline of the program (Style of the lessons/preparation study/review study, thing which left an impression on you, etc.)
The programme was dominated by lectures and field trips. The lectures were supposed to facilitate discussion, but many of them did not result in effective discussion time for the groups. One format that worked was allowing the groups to have discussion time, followed by their return to the floor to share their discussion outcomes. It would be even more effective for professors to facilitate the sharing by connecting the points together into a bigger 'learning/cognitive map'.
(2) Advice on aspects of academic/research work
The academic requirements were not very demanding, and thus there was not much need for research. This is alright given that the objective of the programme is not academic rigour, but exposure to different cultures.
(3) Problems experienced with language issues, advice concerning language, etc.
Aspects of life
(1) Accommodation (Type (home-stay, room-sharing etc.), cost, atmosphere/appearance of accommodation, how you found it, etc.)
SNU dormitory was very good.
(2) Living environment (such as climate, environment around the institution, transport facilities, food, managing your money (overseas money transfer, credit cards))
No comments
(3) Aspects of risk and safety management (safety of local region, condition of medical facilities, any action taken in maintaining your mental and physical health, etc.)
N/A

(4) Details of expenses (breakdown of costs, such as airfare, program fees, cost of required books, rent, food, travel cost, money spent on entertainment)
Airfare JPY 43,000; Food JPY 2,000 per day; Transport JPY 250 per day
(5) Financial aid (if you were receiving financial aid/scholarships, please give the name of the source of the aid, amount, and how you found it, etc.)
N/A
(6) Activities other than academic/research work (sports, cultural, volunteer/internship, weekend activities, etc.
Weekend day trips
Environment of the receiving institution
(1) Support facilities for students taking part in the program (such as language, academic, living support mechanism and counseling services)
N/A
(2) Facilities (libraries, sports facilities, cafeteria, IT equipment and facilities, etc.)
Good running area, good cafeteria serving three meals.
Looking back over the program
(1) The significance of the program and how you have developed by taking part in it, any other impression from having studied abroad
The programme was a good opportunity to meet people from different cultures, and faculty members from different disciplines who could give me additional ideas for further research. The academic component could have been more rigourous, but given that the main objective of the programme is cultural exchange, and the academic level of the students varied from first year of undergraduate to second year of graduate studies, this level of engagement was good. Going to another place that speaks a different language is always good for students, and is necessary in this age to develop global leaders.
(2) Your plans having studied abroad
No change, as an international student who has been studying abroad for the last 4 years.
(3) Any messages or advice for future participants
Not to be afraid of studying abroad, and to make an effort to engage in the other country's culture. This is especially applicable in terms of language. I hope that more students will make an effort to learn the language of the countries they visit, in order to better engage with the local environment.

Miscellaneous
(1) Websites or publications which were useful while preparing for or during your time overseas
N/A
(2) Please submit any photographs which may be used on the University of Tokyo websites or publications.
Separately attached.

東京大学　海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2016年 9 月 17 日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年（プログラム開始時）:	学部2
参加プログラム:	ソウル大学・東京大学合同サマープログラム	派遣先大学:	ソウル大学
卒業・修了後の就職（希望）先:			

	1. 研究職	✓	2. 専門職（医師・法曹・会計士等
	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業（業界:　　）		6. 起業
	7. その他（　　）		

派遣先大学の概要

ソウル大学は韓国の最高峰の国立大学で、日本で言うと東大のようなものですが、東大よりも多くの学部学科を有しています。

参加した動機

国際交流の経験が今まで皆無だったので、まず純粋に経験してみたかったということと、
自分の英会話力の向上のためです。

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

OSSMAなどの手続きは期限が早いので気を付けておいた方がいいです。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

ビザの申請は不要です。

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

ソウル大学の寮に滞在するので、そのために麻疹の予防接種と肺のレントゲン検査の証明書が必要でした。
医師のサインが必要なので面倒です。

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

「付帯海学」と「OSSMA」です。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

特にないです。参加申し込みの際に教務課のサインが必要なくらいです。
夏休み中に完結し、単位とも無縁のプログラムなので、特に問題ありません。

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）

IELTS5.5と自分の語学力はかなり低いと思います。IELTSは受験しましたが、特にこのプログラムのための語学学習はしませんでした。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

英語だけでも大丈夫ですが、やはり韓国語の旅行会話ぐらいは勉強しておいた方がいい気がします。
コンセントの変換プラグと、Wi－Fiの持参は必須です。

学習・研究について

①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等）

前半10日間は東大で、後半10日間はソウル大で開催。
どちらも午前中：講義（英語）、午後：フィールドトリップ、夜：自由行動という形でした。

②学習・研究面でのアドバイス

講義は全て日韓の政治、経済、文化、歴史に関する教養的なもので、
試験があるわけでもないので基本的には予復習は不要。
ただ、英語力が低い自分は、講義は電子辞書を引きながら聞いていました。

③語学面での苦労・アドバイス等

自分の英語力は低い一方でソウル大学の学生の英語力は高く、かなり最初は気後れしましたが、だんだん慣れてきました。

生活について

①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）

ソウル大学の寮に滞在。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）

気候は東京並みかそれ以上に蒸し暑いです。交通費と食費は東京の6、7割で済みました。
ソウルはクレジットカード社会なので、カードがあれば交通用ICカードのチャージ以外はほぼ現金不要です。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）

治安は東京と比べても遜色ないと思います。医療関係は、体調を全く崩さなかったのでよく分かりません。

④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）

航空賃が往復4万円（ANA）、ソウル大の寮の費用が1万8千円、ソウルでの食費・交通費・お土産代などその他諸々で約が5万円。東京でもフィールドトリップの交通費や夜の観光代などでかなり出費がありました。

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）

JASSOの奨学金を7万円頂きました。プログラム申込時に応募可能。

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）

夜の自由行動ではソウル大の学生と買い物やソウル市内観光をしたり、カラオケに行ったりしました。
週末は講義もフィールドトリップもないので、夜と同様の感じになります。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）

特に記述するほどのことはありません。かなり自由です。

②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）

食堂はリーズナブルなものがたくさんあります。
大学のWi－Fiは有線のみで無線は使わせてもらえませんでした。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

ソウル大学の学生とずっと英語で会話をし、講義も英語なので、自分の低い英語力は多少なりとも上がったのではないかと感じています。
お互いの国、文化についても深く知ることが出来、見分も広まりました。

②参加後の予定

冬期休暇中もこのようなプログラムに参加できたらと考えています。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

英語力がなくても慣れと気合で何とかなる上に、
ソウル大学の学生も英語は上手いですが別に母国語としているわけではなく、
低い英語力でもそこまで遠慮することなく話せる雰囲気だったのでお勧めです。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

地球の歩き方：ソウル

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学　海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2016年　9月　23日

東京大学での所属学部・研究科等：	工学部	学年（プログラム開始時）：	学部3
参加プログラム：	SNU - UT Summer Program	派遣先大学：	ソウル国立大学

卒業・修了後の就職（希望）先：

	1. 研究職		2. 専門職（医師・法曹・会計士等
✓	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業（業界：　）		6. 起業
	7. その他（　）		

派遣先大学の概要

ソウル国立大学（韓国トップ）

参加した動機

①英語力向上②海外の大学生との国際的な問題に関する議論の経験

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

Global Leaders Programの方

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

不要でした

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

麻疹の予防接種を受けました

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

生協の海外旅行保険に入りました

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

なし

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）

TOEFL 98

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

特になし

学習・研究について

①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等）

①東京ワウンド(8/1-8/10)では、日本の政治・経済・文化について学び、②ソウルラウンド(8/14-8/24)では韓国の政治・経済・文化などについて学んだ。講義は基本的に午前は授業、午後はフィールドワークという形で、講義・ディスカッション・プレゼンテーションなど形式は様々だった。また夜は各メンバーがおたがいの国の観光地を案内する形で、娯楽面でも充実していた。

②学習・研究面でのアドバイス

自ら積極的に質問していく姿勢が必要

③語学面での苦労・アドバイス等

特になし

生活について

①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）

大学が手配してくださいました

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）

基本的に大学構内のキャンパスに宿泊でき、便利です。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）

治安は良いです。

④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）

個人では5万円くらいでした。（大学が8万円負担してくださいました）

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）

東京大学により8万円支給

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）
アジア開発学生会議（学生団体）
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）
満足でした
②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）
満足でした
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
①英語力の向上②海外文化の理解③様々な国からの視点での、工学部以外の経済・政治・メディアなどの知識習得
②参加後の予定
①英語の勉強②成績向上
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
①学力向上②新たな仲間の一石二鳥のプログラムです！
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特になし
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。
特になし

東京大学　海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2016 年　9月　6日

東京大学での所属学部・研究科等:		学年（プログラム開始時）:	
参加プログラム:	ソウル大学・東京大学合同サマープログラム	派遣先大学:	ソウル大学

卒業・修了後の就職（希望）先:

	1. 研究職		2. 専門職（医師・法曹・会計士等
	3. 公務員		4. 非営利団体
✓	5. 民間企業（業界:　　）		6. 起業
	7. その他（　　）		

派遣先大学の概要

ソウル大学

参加した動機

過去の外国での留学経験が自分に大きな刺激を与えた、大変良い経験であったため、再度、外国に一定期間赴いて現地の学生と交流するという経験がしたかった。日本と社会的・文化的に類似点の多い韓国に以前より興味を持っていたため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

応募書類の提出先は学部や専攻により異なったため、所属専攻の担当者の方に問い合わせてどこに提出すればよいのか事前に確認した。
プログラム参加内定後には、提出期限が明記された必要な学内手続きチェックリストが配布された。こちらは非常に便利だった。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

ビザは不必要

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

英文診断書を提出する必要があるが、東京大学の保健センターを利用すると安価で便利だった。常備薬はきちんと持っていった。予防接種は場合によっては追加で受ける必要があるが、私はソウル大学より指定された予防接種は全て以前に受けていたため、追加の予防接種は必要なかった。

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

付帯海学保険に加入する必要がある。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

特になし

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）

日常会話に加えて、ディスカッションに参加できる程度の英語力があると良いと感じた。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

特になし

学習・研究について

①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等）

本留学プログラムは東京大学とソウル大学のJoint Summer Programである。まず8月1日より10日間、東京大学にてソウル大学の学生と共に講義を受け、国会議事堂や新大久保のコリアタウンなど日本の政治を担う中心地や日韓関係の理解を深めることの出来る場所を訪問した。その後、8月15日から10日間、ソウル大学にて講義をフィールドトリップを行った。ソウルラウンドの1日の主なスケジュールは、まず午前中に韓国の政治や文化に関する講義を受け、午後にはフィールドトリップを行うというものだった。フィールドトリップではSAMSUNGやNational Assemblyを訪問した。本プログラム全体を通して、事前に決められた6～8人の班ごとに行動していたため、同じ班のメンバーと20日間のプログラムの中で密にコミュニケーションをとり交流することが出来た。

②学習・研究面でのアドバイス

日本と韓国の政治や文化などが専門の両大学の先生方の講義は大変分かりやすかった。参加者の学部・専攻は多岐に渡っていたため、背景知識がない学生もきちんと理解できるように構成された授業が多かったと思う。それに加えて、講義の内容は最終的には深いところまで掘り下げられており、講義の後半に行われた学生同士の議論も活発であった。

③語学面での苦労・アドバイス等

英語でのコミュニケーションによる英語スキルの向上は多少は感じたものの、日本語を話せるソウル大学の学生が多くいたため、日本語で会話することも多かった。

生活について

①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）

寮に滞在した。部屋は2人1部屋のシェアルーム。ルームメイトは東京大学より自動的に割り振られた。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）

ソウルへは8月に訪問したが、東京と同じくらい暑かった。交通機関は東京と比べて安価。クレジットカードは多くのお店で使用可能。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）

治安は良好。日によってはプログラムのスケジュールがタイトで睡眠時間が短くなることもあったため、体調管理には気をつかった。

④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）

航空券は43000円程度。授業料や教科書代はなし。寮費は日本に帰国後請求された。10日間で18000円弱だった。交通費は10日間で数千円。

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）

JASSO 7万円

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）

週末はフリーであったため、参加者学生とソウル市内観光をした。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）

良かったと思う。生活環境や体調は親切に気遣ってくださった。

②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）

寮の近くにコンビニやパン屋、韓国料理屋、カフェテリアがあり便利。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

韓国の学生と交流する経験を通して、韓国の学生の日韓関係に対する考え方や日常生活など中々聞くことのない話題に関して知ることが出来たことが本プログラムに参加して得られた最大の効果であると感じている。英語でのコミュニケーションによる英語スキルの向上は多少は感じたものの、日本語を話せるソウル大学の学生が多くいたため、日本語で会話することも多かった。その分、コミュニケーションは円滑に進んだと感じている。

②参加後の予定

さらに海外で色々な学生と交流してみたいという気持ちが深まった。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

学部学生が多く、いろいろな学部の学生と交流できるプログラムだと思います。他の留学プログラムと比べてもプログラム期間が長いため、参加学生とは上辺だけではない深い議論や友人関係が築けるプログラムです。

その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特になし
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学　海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2016 年 8 月 27 日

東京大学での所属学部・研究科等：	教養学部	学年（プログラム開始時）：	学部1
参加プログラム：	ソウル大学・東京大学合同サマープログラム	派遣先大学：	ソウル大学

卒業・修了後の就職（希望）先：

	1. 研究職		2. 専門職（医師・法曹・会計士等
	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業（業界：　　）		6. 起業
✓	7. その他（　　）		

派遣先大学の概要

韓国の最難関の国立大学。16の多様な学部がそろい、世界のトップクラスの学生が学んでいる。

参加した動機

私にとって4歳から4年間通った、フランスのインターナショナルスクールでの経験が初めての国際交流の体験だった。そこでは国による宗教や価値観、歴史の違いに触れ、外国と日本の相違やまた相違故に生じる紛争など、国際関係に興味を持つようになった。そのためには日本で講義を受けるだけでは不十分だと感じ、実際に自分で海外で体験したいと考え、このプログラムに応募した。

さらに私は新興国における国内の経済格差の問題に関心があり、今回は韓国の経済成長において日本とどのような関わりをしてきたのかを学びたいと思った。加えて日本という国を客観的に見直し、領土問題や安全保障の問題など日本の抱える社会問題について多面的な理解ができるようになりたいと考えた。

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

今回のプログラムは英語の語学能力を示すTOEICやTOEFLのスコアがなくても英検だけで応募可能だった。また、一年生であったため、成績の計算も不要であった。しかし、留学申請書類はすぐに書き上げられるものばかりではなく、また教務課や担当教員のサインも必要なので、早めに準備する必要がある。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

ビザは不要であったため、問題はなかった。

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

ソウル大の寮に滞在したため、入居に必要なHealth Formの記入が必要だった。ほとんどは母子手帳などに記載されているが、医師のサインが必要である上、足りない予防接種があるときはその投与も必要なので、特に医療関係の書類は早めに準備するべきだと感じた。

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

OSSMAと付帯海学の保険に加入した。いずれもこのプログラムで加入が必須であったので、指示の通りに登録を進めた。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

1年生であるので、教務課に渡航届や本部国際交流課に渡航情報届を提出した。

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）

英検1級、TOEIC950点のスコアを留学申請後、渡航前に入手した。講義やディスカッションはもちろん、ソウル大の学生との会話も英語なので、スピーキングが重要だと感じた。また韓国語はほとんど準備せずに渡航したが、韓国語の基本会話ができると、渡航の際役に立つと思った。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

ドライヤーなどの電気機器は電圧が異なるので注意した。また、このプログラムは観光する時間があるので予め行きたい場所や食べたい食事などを調べておくといい。

学習・研究について

①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等）

午前中は2～3時間の講義、午後は講義に関連する施設や機関の見学をするという形であった。このプログラムは政治や経済、文化など、多様な分野のソウル大と東京大学の教授の講義を受けることができるのが非常に魅力的であり、1年生の私には学問の幅が広がる点においても大きな意味を持った。
フィールドトリップで訪れる機関はなかなか入れない政治機関や報道機関、さらに有名な政治家のお話しを聞く機会もあり、どれも貴重な時間だった。。
さらに東京ラウンドでは講義のあとにディスカッションの時間があり、ある日は領土問題について議論する機会もあった。これらでは非常に高度な意見のやり取りが行われ、非常に刺激的であった。プレゼンもあり、グループでそれぞれ決めたテーマに基づいて発表した。なお、授業もディスカッションもすべて英語で行われた。

②学習・研究面でのアドバイス

積極的に意見を言うと、ソウル大の学生もそれに応えてくれる。また日韓の政治的、文化的な違いは教授から学ぶだけでなく、学生に直接会話の中で知ることができた。多くの学生と話すと興味も知識も増すと思う。

③語学面での苦労・アドバイス等

リスニング、スピーキング能力が特に重要。

生活について

①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）

ソウル大学の寮。二人1部屋。エアコン、シャワー、トイレ、勉強机、棚などが完備されている。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）

ソウル大学のキャンパスは非常に広い。寮までは2号線ソウル大入口駅、あるいは、ナクソンデ駅からバスで移動する。バスは5～10分おきに来る。金浦空港や仁川空港からはソウル大に直通のバスがある。
寮から徒歩1分ほどのところに学食、カフェ、パン屋、韓国料理屋、24時間営業のコンビニなどがあり、またソウル大入口駅やナクソンデ駅周辺は飲食店が充実している。タクシーも安いので使いやすい。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）

治安は非常に良い。ただ、海外の地であり韓国語を話せないので、夜はなるべく一人にならないように気を付けた。

④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）

航空券は片道5万円弱。その他食費やお土産・娯楽費を含めて4～5万ほど使った。食事の物価は日本に比べて非常に安い。

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）

奨学金付きのプログラムだったが、今回は申請しなかった。

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）

午後のフィールドトリップのあとは現地解散であったので、ソウル大の学生や東大の学生たちと一緒に夕飯を食べたり、観光や文化交流を楽しんだ。週末も東大の学生やソウル大の学生らと観光を楽しんだ。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）

特になし

②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）

講義を受ける部屋は無料Wi-Fiが利用できるが、寮はWi-Fiがないので、各自空港などでポケットWi-Fiを借りて利用した、寮の部屋にはLANケーブルはある。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

まず、このプログラムは東京ラウンド・ソウルラウンドの両方がありそれぞれ10日間あった。ほぼ毎日の講義とディスカッションはどれも刺激的であり、学問の幅が広がり、これまでとは異なり、実体験に基づく教養・知識が身に付いた。韓国と日本両国のトップの大学の学生の意見はどれも高度であり、普段の授業では味わえないような学問的刺激を味わった。特に日韓の関係は政治・外交上重要であり、日韓の相違について意見を実際に韓国の学生と交わす機会があったことは大きな意義があった。

また、グループに分かれて議論やプレゼン、フィールドトリップに参加したためグループの結束が固くなった。後半では他のグループの学生とも関わる機会が増え、より多様な価値観を実感できた。約1か月間ともに過ごした仲間は今後も交流を続けていきたい。

②参加後の予定

これまでは大学を4年で卒業し、就職することを考えていたが、海外の大学院に進んでより専門分野を極めてグローバルに活躍できるようになりたいとも考えるようになった。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
このプログラムは他の（北京大や香港大）大学と異なり、東京とソウルと両国のラウンドがあり、ソウル大の学生と過ごす時間が長く、同時に交流も深まる貴重な機会です。国境を超えた友人関係が構築されるだけでなく、講義はどれも内容が濃く、討論は白熱し、これまでの日本での暮らしだけでは味わえないような刺激にあふれたプログラムです。自分自身や、日本という国、さらに日本を取り巻く世界について考えさせる、最高の留学プログラムです。

その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特になし
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学　海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2016　年　8　月　25　日

東京大学での所属学部・研究科等：	教養学部	学年（プログラム開始時）：	学部1
参加プログラム：	ソウル大学・東京大学合同サマープログラム	派遣先大学：	ソウル大学校

卒業・修了後の就職（希望）先：

✓	1. 研究職		2. 専門職（医師・法曹・会計士
✓	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業（業界：　　）		6. 起業
	7. その他（　　）		

派遣先大学の概要

ソウル大学校は、大韓帝国時代の高等教育機関を母体として1946年に正式に設立された韓国の国立大学。韓国のトップ大学の一つ。

参加した動機

日本と共通点が多い韓国の社会や人々の考え方が、どのような点で日本と異なっているのかに興味があったため。また、日程の半分は東京での活動であり、こちらが韓国について学ぶだけでなく、韓国の学生が日本をどう捉えているのかがわかることにも魅力を感じた。

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

1ヶ月前までに教養学部に提出しなければならない渡航届のことをすっかり忘れていて、渡航二週間前の提出になってしまった。本郷の国際交流課に出す渡航届とは別なので要注意。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

今回の滞在期間では特にビザの申請は必要ない。日本から韓国への渡航では、パスポートの残り有効期間が3カ月以上であることが推奨されている。

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

大学の寮に滞在するために、麻疹風疹おたふく風邪の予防接種歴または血液検査での免疫反応があること、肺結核の予防接種歴または胸部X線の結果が必須だった。かかったことがある、というだけでは認められない。大学の保健センターで検査してもらえるが一つにつき６００円くらいかかる。胸部X線については、一年生は入学前の健康診断で受けているのでその結果が使える。

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

大学が申し込んでくれる付帯海学と、保健ではないがOSSMAに加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

教養学部に海外渡航届を出した（先述の通り、国際交流課に提出するものとは別なので要注意）。

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）

英検準一級を高校三年生で取得。せめて駅の名前くらいは読めないと困るだろうと思い、直前にハングルと簡単な挨拶だけは覚えて行った。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

多少割高でも、Wi-Fiは機械を日本でレンタルするなどして、常に使えるようにしておく方が良い。あとは、寮の部屋はプログラム終了後、掃除をしてチェックアウトになるので、掃除用具（床を拭けるシートとか）を持って行くべきだったと思った。特に夏休み中のプログラムの場合、飛行機はどんどん価格が高く、選択肢は狭くなるので、早く予約するに越したことはない。

学習・研究について

①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等）

東京で８月１日から１０日まで、ソウルで１５日から２４日まで、両国の社会や文化についての英語の講義を受け、フィールドトリップとして官公庁や企業、博物館などを訪問した。ソウル大学生５人くらいと東大生３人くらいからなるグループを６つ作り、グループ単位で東京にいる間に二回、プレゼンテーションの機会があった（一回目は尖閣問題をめぐるディベート。二回目は各グループで自由にテーマを設定でき、私のグループは日本と韓国の通貨について発表した）。

②学習・研究面でのアドバイス

専門知識がほとんど無い状態で講義を聞き、自分の抱いた疑問が他の参加者にとっては初歩的すぎることなのではないかと不安に思うことがよくあった。一番下の学年の参加者として先生方からも先輩からも学べることは全部学ぼう、と割り切って自分なりに積極的に活動に参加したつもりだが、講義のテーマが事前にわかるのであればもっとプログラム前に予習しておくべきだったと思う。

③語学面での苦労・アドバイス等

ソウル大学の学生との会話はほぼ問題なかったが、講義では学術的な語彙の足りなさを痛感した。また、ソウル大学生には日本語ができる学生、積極的に日本語で話しかけてくれる学生が多く、自分が韓国語をわからないのがかなり心苦しかった。観光や授業以外の生活のためにも、せめてスマートフォンで現地の文字を打ち込んで、辞書サイトで単語の意味を調べられる準備はしておくといい（私は洗濯機のボタンの意味がわからず、寮の洗濯機の前で途方に暮れた）。

生活について

①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）

ソウル大学の寮に滞在した。費用は一泊で２５００円くらい。Wi-Fiがないのは不便だったが、近くにカフェテリアやコンビニもあり、授業が行われる建物まで徒歩１５分と快適だった。二人で一部屋。シャワーとトイレが各部屋にあり、ちゃんと分かれていて便利。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）

キャンパスがかなり大きな山の中にあり、急な坂と階段が多い。そしてキャンパスが広い。地下鉄の最寄駅から１０分おきくらいの間隔でバスが走っている。交通費は東京の半分くらい。食費も東京よりかなり安く済み、学食なら夕食でも4000ウォン（400円くらい）で食べられる。私はレートが不安で使わなかったが、日本よりもクレジットカードが普及していて、ソウル大学の学生の中には財布にほとんど現金を入れていない人もいた。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）

治安は東京とあまり変わらないのではないかと思った。財布と携帯電話、パスポートは肌身離さず持ち歩くようにしていた。信号機がない交差点が日本より多く、車はあまり歩行者に譲ってくれない。

④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）

航空賃が約５万円、寮の家賃が約３万円、東京でかかった交通費と食費が合わせて２万円くらい、ソウルでかかった交通費と食費、お土産代などが合わせて５万円くらい。寮に入るための健康調査票の準備に3500円くらい、保険とOSSMAに9000円くらい。日本円から韓国ウォンへの両替はおそらく韓国の両替商で替えるのが一番レートがよい。

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）

JASSOからの奨学金７万円を受給できる予定。GoGlobalのサイトで見つけた（そもそもこのプログラムが、奨学金つきのプログラムとして紹介されていた）。

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）

ソウルでは、講義とフィールドトリップの後は、同じグループのソウル大学の学生がソウルを案内してくれた。週末は東大の他の学生と一緒に観光や買い物をして過ごした。東京での活動中も、用事がない日はなるべくグループの学生と一緒に行動したが、私自身が地方出身の一年生だったこともあり、東京を案内することがあまりできなかったのは少し悔しく思っている。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）

寮への入居などについては日本語のできるTAの方がサポートしてくれ、メールで質問すると一晩で答えてくれた。

②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）

私は利用しなかったが、滞在した寮のすぐ近くに２４時間開いているジムがあった。食堂もすぐそば。メニューは日替わりで2種類から選べるようになっていた。他にもキャンパス内に食事ができるところはたくさんある。唯一惜しかったのは、utroamのようなWi-Fiがなかったこと。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

当初期待していた通り、韓国の学生が自分の社会や日本についてどう考えているかを感じ、また英語で考えて話す感覚を取り戻すことができた。さらに予想していなかった収穫として、年上の学生と交流する中で、自分の進路について考えられたことがある。これまで社会に出て働く自分が想像できず、適性があれば研究者になりたいと漠然と考えていた。しかし、社会人として働いた経験を持つ学生や大学院生を含めた年上の学生と一緒に活動する中で、より積極的に社会の中で責任を果たしたい、最終的に研究の道に進むにしても学問の世界だけではなく、何らかの立場で働いた経験を持ちたいと考えるようになった。

②参加後の予定

近いところでは、ソウル大学生のうちの何人かが、この冬に大阪に行くことを計画していると聞いたので、そこで彼らと再会したいと思っている。このプログラムを通して交換留学や政治・行政機関でのインターンに興味が湧いたので、そうした機会へのアンテナを高く張るとともに、手に入った機会を最大限生かせるように大学や自分でする勉強を大切にしたい。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

TOEFLのスコアも持っていない学部一年生の私は、正直申し込みの書類を提出した時は参加できるとは思っていませんでした。プログラムの中でも自分の未熟さを実感することはままありましたが、それでも心から参加して良かったと思えます。もし興味があるなら是非挑戦してほしいです。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学　海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2016年8月30日

東京大学での所属学部・研究科等：	教養学部	学年（プログラム開始時）：	学部2
参加プログラム：	SNU	派遣先大学：	ソウル国立大学

卒業・修了後の就職（希望）先：

	1. 研究職		2. 専門職（医師・法曹・会計士等
✓	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業（業界：　　）		6. 起業
	7. その他（　　）		

派遣先大学の概要

韓国で最も頭のいい大学で、広大なキャンパスを所持している

参加した動機

将来、英語を使う職に就きたいと考えていて、1ヶ月という期間は自分にとって実力を高めるためには充分の長さであると考えたため。また、同じアジアの国である韓国の学生がどのような人達で、世界をどのように考えているのか興味があったため

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

様々な書類の記入が要求されるので計画的に行いましょう

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

ビザは必要ではなく、パスポートだけだったのでかなり楽でした

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

3つの予防接種を必須とされていましたが、3つとも多くの人達は既に受けていると思うので心配要らないと思います。ただ僕の場合一つだけ受けておらず、接種をうけるのが直前になってしまったので、はやめにそういった事柄は進めておくことを薦めます

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

OSSMAと付帯海外保険に加入しました。OSSMAの手続きは比較的早い段階での手続きを求められているので、早めの手続きを薦めます。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

海外渡航届けを出しただけです

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）

TOEFLの対策をすることで英語力を高めようとしてました

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

変換プラグ　　異なる価値観に寛容な心があれば全て上手くいきます

学習・研究について

①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等）

東京ラウンドでは午前は英語での授業とディスカッションを行い、午後に講義に関連するフィールドワークを行った。ソウルラウンドでは午前は英語での授業を行い、午後は韓国の文化や特徴が分かるフィールドトリップを行いました。印象に残っているのはソウル大学でのSNSに関する授業とNANTA鑑賞です。前者は生徒を上手く引きつけるような授業展開がされており、後者は言語が分からなくても迫力充分で楽しめました

②学習・研究面でのアドバイス

授業中に質問を考えながら聞くと集中できるでしょう

③語学面での苦労・アドバイス等

語学力はあまり気にせず、積極的に発言することを心がければ、良いと思います

生活について

①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）

SNUの寮に泊まりました。石けんやトイレットペーパー、WIFIがないのは少しショックでしたが、勉強机やベットなどその他の設備はきちんとしていて、授業を受ける教室からも近く便利でした

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）

気候は日本と同じで蒸し暑かったです。交通機関は日本に比べてかなりシンプルで値段も安く便利でした。食事は辛いものが比較的多いですが、辛くなくても美味しいものも多く、値段も良心的でした。お金は現金で持っていきました

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）

治安はかなりよくほとんど日本と同じような感じです。

④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）

15万（航空賃4万　寮費2万ホテル費2万　交通費1万円　娯楽費6万）

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）

週末はソウル大学の生徒にハングリバーやロッテワールドなどのソウル市内の観光施設やチョンジュンと言われる伝統的都市に連れていってもらいました。現地の学生と行動するとかなり楽しめます

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）

短期留学なので特にサポート体制はありません

②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）

スポーツ施設はキャンパス内に多くあり、食堂もかなりありました、

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

一番の意義はプログラムを通して観光の学生と仲良くなり、未来に繋がるフレンドシップを形成できたことです。また自らの語学力も向上し、積極的に英語を使えるようになりました。参加を通じて、かなりプログラム中はタイトなスケジュールを組んでいたので、かなりタフになれたかなと思っています。留学は短期であっても一回はするべきだと思います。自らの世界観を広げるきっかけになってくれます

②参加後の予定

自らの専門の法学を勉強とすると共にTOEFL受験に向けて対策を進めていきたいと思います

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

どの学生も話す言語は違えど、みんな良い学生です。開かれた心さえ持てば必ず一生の友達を得ることが出来るでしょう。学生期間に海外に行けるという経験は貴重だと思うので、是非皆さんも機会を生かしてください

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

地球の歩き方

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学　海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2016年　8月　26日

東京大学での所属学部・研究科等：	法学部	学年（プログラム開始時）：	学部3
参加プログラム：	SNU-UT Summer Joint Program	派遣先大学：	ソウル大学

卒業・修了後の就職（希望）先：

	1. 研究職		2. 専門職（医師・法曹・会計士等
✓	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業（業界：　）		6. 起業
	7. その他（　）		

派遣先大学の概要

韓国の国立大学。日本における東京大学のように、多くの政治家、公務員や有力な民間企業へ卒業生を輩出している。

参加した動機

以前から留学に興味があり、長期の留学を考える前に、自身の能力を試し、また本当に留学が必要であるかを見極めるために参加した。ソウル大との合同ということで、多くの文化的背景を共有しつつ、東アジア地域で共存する韓国の同世代の学生と直接交流することで、従来持っていたバイアスから自らを解放し、異文化への理解の深化を期待した。

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

なるべく早く航空チケットの予約をしたほうが良い。8月の中旬のチケットは高く、また混雑しているため。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

不要

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

予防接種について、十分な時間的余裕をもって確認、準備することを強く勧める。一部の予防接種は連続で接種できないことがあるため。

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

付帯海学

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

教務課への必要書類の提出。期限が早いので注意。

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）

韓国からの留学生が自主的に放課後行っている韓国語の授業でハングルの学習をした。また飛行機の中で韓国語の日常生活に関する表現は学習した。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

夏なので蚊に刺されたときの薬。変圧器（変換プラグだけを用意して満足してはいけない）。複数の会社のクレジットカード（ATMとの相性が悪いことがある）。数字だけでも現地の言葉を使えるようにしておいたほうが良い。Wi-fiは必須。

学習・研究について

①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等）

月曜日から金曜日まで午前は講義、午後はフィールドトリップを行った。ディベートやプレゼンテーションに向けて土日を使って準備を行った。授業で使うスライドをまとめた冊子が配られ、事前に内容を把握できた。

②学習・研究面でのアドバイス

プレゼンテーションを行ったので、パソコンとインターネット環境が必要。英語については電子辞書などすぐに調べられるものを持っておくことが望ましい。ハードなスケジュールであったので、夜は早めに寝たほうが午前の講義の集中のためには良い。

③語学面での苦労・アドバイス等

最低でも数字や文字が読めるようにはなっていたほうが良い。駅名表示などで英語表記が存在しないことがある。

生活について

①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）

大学内の寮で生活した。オートロック式なので閉じ込めに注意。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）

今年のソウルは東京よりも日差しが強く、体調管理が難しかった。ATMを通し、ウォンを入手したが、カードによっては何度も失敗したので、念のために用意しておいた日本円でいくらかを両替した。T-moneyとよばれるデポジットのカードでバスや電車に乗った。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）

治安は良いが、日差しがとにかく強かったので、水分補給はまめに行った。汗を拭くシートやうちわを持ち歩いた。

④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）

航空賃が往復で3万程度、交通費が5000円以内、買い物が多かったため、さらに3万ほど使った。

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）

JASSOの奨学金を利用。

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）

TAとこまめに連絡を取り、問題は解決できた。ただし、東京大学の学生のみ教科書に当たる冊子の配布がソウルで初めて行われたため、東京の講義は大いに不便だった。

②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）

図書館の使用については何も聞いていない。食堂は安価でよかった。Wi-fiが教室、寮ともに提供されておらず、自分で用意する必要があった。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

同世代の学生との3週間におよぶ交流の中で、講義やマスメディアからは得難い忌憚のない意見を交わすことができた。これは従前に抱いていた一種のバイアスを改め、表面的な相違点の深部にある共通点を見出し、他者に共感する力や異文化への理解を深めることにつながったであろう。初めて他国の学生と英語で議論し、また英語で講義を受けるという経験をしたことは、自らの能力の限界や改善の余地を発見することにつながった。

②参加後の予定

以前から卒業後は留学をしたいと思っていたが、そのために今の自分に何が必要であるかという具体的なことは考えてこなかった。しかし今回の留学を通して、英語で自らの意見を的確に伝えたり、他者の意見を聞きとったりするのに必要な能力において特に不足している部分を自覚することとなった。また初めて異国の地で親元を離れて数週間の生活をすることとなったが、家事を含めて自分の生活を自分で世話をする中で、一人で生活することへのハードルが少し下がったように思える。留学に向けた準備をするなかでこれらの経験は大いに参考になるだろう。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

異なる背景を持つ人々との交流は自分の視点を広げ、見慣れていた日常生活の中で新しい発見をすることを促す。これは自分にとってもとても好ましいことであると思う。今回の留学は、自らの能力の限界、発展可能性を明確にするうえで貴重な経験となった。漠然ともっていた目標に対して、自分はなぜその目標を持ったのか、どのように達成へと近づけるのかという具体的な道筋が見えたように思える。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

ソウル内での観光についてはseoul.naviやkonestで地図や割引券を入手できた。韓国語の教科書も持っているとよい。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学　海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2016年　8月　27日

東京大学での所属学部・研究科等：	経済学研究科	学年（プログラム開始時）：	修士1
参加プログラム：	ソウル大学・東京大学合同サマープログラム	派遣先大学：	ソウル大学

卒業・修了後の就職（希望）先：

✓	1. 研究職		2. 専門職（医師・法曹・会計士等
	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業（業界：　　）		6. 起業
	7. その他（　　）		

派遣先大学の概要

ソウル市の南部に位置し、地下鉄の駅からバスを使って大学へ行く。大学キャンパス内に寮があり、授業がある建物へ徒歩で向かう。大変広いキャンパスで自然も豊かであり、バスケットコートなども利用できる。

参加した動機

韓国について知らないことが多かったのでこの機会に学びたいと思ったのと、将来留学するために準備として海外滞在をしたかったから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

英語力を示すスコアが必要になるので、余裕をもって英語力の向上やTOEFLなどの受験を行っておくとよい。参加する目的を明確に持っておくとよい。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

パスポートがあれば滞在できる。

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

予防接種と健康診断の結果に関する証明が必要であった。

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

大学の定めたJEESの付帯海学に加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

海外渡航届を提出した。

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）

TOEFL80点。 夏学期に大学で行われるSELを受講した。 授業やコミュニケーションで支障はなかったが、もっと英語力が高ければより多くのことを学び、楽しむことができたと思う。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

ポケットWi-Fi、変圧可能なドライヤー。 自由時間がたくさんあるので、事前に何をしたいか、どこに行きたいか考えておくとよい。

学習・研究について

①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等）

東京ラウンドとソウルラウンドでそれぞれ講義5～6回、フィールドワーク4～5回、議論を行うフォーラムなどが行われた。講義は政治・歴史・経済・経営・文化・コミュニケーションなど多岐にわたり、各大学の専門の先生が日韓に関係するトピックを抽出して講義してくださり、刺激的なものであった。事前に講義のスライドが入手できたので、目を通してどんな授業かをイメージして臨んだ。国際政治について、両大学の著名な先生が講義をしてくださり、アカデミックな視点から現在の国際問題・日韓関係を考えることができた。

②学習・研究面でのアドバイス

あらかじめスライドを読み単語の意味を調べておくと、英語に不安があっても内容が予想しながら授業を聞けてよいと思う。

③語学面での苦労・アドバイス等

英単語を思い出すのに時間がかかるとスムーズに会話ができないので、単語力を高めておくとよかった。 それでも積極的に話しかければ理解してもらえる。

生活について

①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）

寮が大学のプログラムに付帯して用意されていた。 10日間で約3万円と聞いている。2人部屋のルームシェアで、新しい建物のため清潔であった。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）

夏で高温多湿であったが、晴れの日が多くて快適であった。バスでの移動が多かったが、SNUの学生が教えてくれたのでスムーズに過ごすことができた。両替は韓国の方がレートがよいが、両替所の多くは大学から離れた町にある。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）

手洗い・うがいを行って健康管理に努めた。ソウルは治安が良く、危ない場面もなかった。

④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）

航空券4.5万円、10日間の生活費はおよそ5万円。

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）

7万円。プログラム申し込み時に申請。

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）

SNUの学生がいろいろな観光地やカラオケなどに連れて行ってくれた。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）

TAの方がとても親切に対応してくれた。

②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）

学食は価格も安く使いやすかった。 寮で有線でのネット接続は行えたが、無線が使えなくて少々不便だった。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

隣国ながら韓国について知らないことも多かったが、このプログラムを通して多くの友達ができ、講義を通して知識を深めたりいろいろな場所を訪れて実際に見て知ることで、単に観光していては得られない貴重な経験ができ、韓国に対する親近感が深まった。いろいろな人と話すことで、他人の考え方を知ったり、自分を見つめなおすことができた。

②参加後の予定

この経験をもとに、普段の生活に戻っても韓国のことを気にしてニュースを読むなどしたい。もとの目的であった長期留学の準備も進めていきたい。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

このプログラムに参加する韓国の学生は日本にとても興味を持ってくれるので、こちらもあらかじめ韓国について知っていたり、韓国でやりたいことを考えておくとよいと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

旅行ガイドブック（軽くて持ち運びのしやすいもの）。ガイドブックは観光地よりもショッピングやグルメ中心なので、行きたいところはWebで調べておくとよい。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

The University of Tokyo Study Abroad/Student Exchange Program Report Form
(for programs from a week to 3 months)

Date: 08/31/2016

Faculty/Graduate School at UTokyo:	Faculty of Engineering	Year at the time of Study Abroad	M2
Program Attended:	SNU-UTokyo Joint Summer Program 2016	Host University:	Seoul Natiaonal University

Occupation after graduation (intended):

✓	1. Research
	2. Specialist (Medical・Judiciary・Accountant)
	3. Civil Service
	4. NPO
	5. Private sector (Type of industry:)
	6. Entrepreneurship
	7. Others ( )

Outline of the receiving institution overseas

Seoul National University is a national research university located in Seoul, the capital of Korea. Since its founding in 1946, It has been widely considered to be the most prestigious university in the country.
Seoul National University is located on three campuses: the main campus is in Gwanak and two additional campuses in Daehangno and Pyeongchang. The university comprises sixteen colleges, one graduate school, and nine professional schools. The student body consists of nearly 17,000 undergraduate and 11,000 graduate students. According to data compiled by KEDI, the university spends more on its students per capita than any other university in the country that enrolls at least 10,000 students.

Reason why you decided to participate

1. Try to communicate with Korean students and try to to know more about Korea.
2. Improve English ability.

Preparation for the program

(1) Application process (please give any advice on dealing with the application process)

Just submit the documents according to the requirement, it's not difficult.

(2) Visa application (type of visa, where to apply, processing time, any advice on visa application)

For the student who need to apply visa, C-3-1 is best for the Visa application. Only an invitation letter and an application form are required, the invitation letter could got from TA, and application form is easy to donwload from the weisite of Korean Embassy in Japan. It takes about 4000 yen for visa application.
FYI: http://jpn-tokyo.mofa.go.kr/worldlanguage/asia/jpn-tokyo/visa/issuance/short/index.jsp

(3) Medical check-ups (health check-ups before departure, inoculations, etc.)

For the domitory move in, a specific format of the health form is needed, immunization test of “Measles(麻疹)” and “Chest X-ray(胸部X線)” are compulsory. For Measles, you have to have either ‘two-time-record for vaccination’ or ‘positive antibody titer’. For Chest X-ray, you need to have ‘normal’ result. (You should have medical result for two items – Measles
and Chest X-ray – even when your medical provider gives different kind of form.)
Tokyo Medical University could help to fill the form, but it needs reservation. Since I have only one time record for MMR vaccine, so I vaccinated MMR vaccine once again, finally it takes about 25,000 yen to finish the health form.

(4) Insurance (information about insurance for travel/studying abroad purchased)
The insurance company was specified and it's very easy to finish the insurance, just do according to the guide from the University. It takes 4980 yen for Seoul round.
(5) Procedures required by your Faculty/Graduate School (any information about course registration, credits, exams, submission of dissertations etc)
None.
(6) Language preparation (language level before the program, lessons etc.)
None.
(7) Items which should be taken with you from Japan and any other advice on things which should be done before leaving Japan.
1. Don’t forget to carry electricity adapter and power strip. 2. Wifi is not provided in both the domitory and the lecture room.
Information on the academic/research program
(1) Outline of the program (Style of the lessons/preparation study/review study, thing which left an impression on you, etc.)
The lecture is in the morning, and in the afternoon, famous places will be visited. The lectures are all with respect to social science.
(2) Advice on aspects of academic/research work
It's better to overview the lecture-material and learn relevant English words first.
(3) Problems experienced with language issues, advice concerning language, etc.
None.
Aspects of life
(1) Accommodation (Type (home-stay, room-sharing etc.), cost, atmosphere/appearance of accommodation, how you found it, etc.)
Each domitory room accomordate two person, the environment is really good but there is no wifi network. In addition, the bedding is not very comfortable expecially for the pillow. Besides, it cost about 1600 yen per day.
(2) Living environment (such as climate, environment around the institution, transport facilities, food, managing your money (overseas money transfer, credit cards))
The climate is almost the same with Tokyo, and the transportation fee is much lower than Tokyo. There is resturant, café and ATM machine near the domitory, so everything is convenient.
(3) Aspects of risk and safety management (safety of local region, condition of medical facilities, any action taken in maintaining your mental and physical health, etc.)
There is no problem with the safety, and if you feel uncomfortable, TA will help you.
(4) Details of expenses (breakdown of costs, such as airfare, program fees, cost of required books, rent, food, travel cost, money spent on entertainment)
Airfare: About 40000 yen; Food: About15000 yen; Entertainment: About 20000 yen; Transportation in Seoul: About 5000 yen.

(5) Financial aid (if you were receiving financial aid/scholarships, please give the name of the source of the aid, amount, and how you found it, etc.)
70000 yen from the University or Jasso.
(6) Activities other than academic/research work (sports, cultural, volunteer/internship, weekend activities, etc.
Play table tennis near the domitory, and shopping at Myeong-dong area on the weekend. In addition, we went to Room Escape with Korean students.
Environment of the receiving institution
(1) Support facilities for students taking part in the program (such as language, academic, living support mechanism and counseling services)
We got a lot of support form the Korean students and TA.
(2) Facilities (libraries, sports facilities, cafeteria, IT equipment and facilities, etc.)
There is cafeteria near the domitory, but Wifi is not provided in both the domitory and the lecture room.
Looking back over the program
(1) The significance of the program and how you have developed by taking part in it, any other impression from having studied abroad
This program makes me know more about Korea and how to communicate with other country's students. And also, it makes me more fluent in discussing with others about the academic topics in English.
(2) Your plans having studied abroad
I am planing to exchange to study in American University for half or one year in the Ph.D. period.
(3) Any messages or advice for future participants
It's a really good program and Korean students are really nice. So, come and participate!
Miscellaneous
(1) Websites or publications which were useful while preparing for or during your time overseas
None.
(2) Please submit any photographs which may be used on the University of Tokyo websites or publications.
None.

東京大学　海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2016 年　9月 1 日

東京大学での所属学部・研究科等：	教養学部	学年（プログラム開始時）：	学部3
参加プログラム：	SNU-UT Joint Summer Program	派遣先大学：	Seoul National University

卒業・修了後の就職（希望）先：

✓	1. 研究職		2. 専門職（医師・法曹・会計士等
✓	3. 公務員	✓	4. 非営利団体
✓	5. 民間企業（業界：　）		6. 起業
	7. その他（　）		

派遣先大学の概要

派遣先の大学はSeoul National University でした。TAさん含み、生徒のみなさんはとてもご聡明、かつ優しく、非常にグローバルな方々ばかりでしたので、みなさんとの交流を通じて、韓国の事を多く学べました。

参加した動機

韓国の人々が日韓の問題に対してどのような考えを持っておられるのか知りたくて、参加しました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

何事も早めにすること。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

N/A

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

特になし。

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

あの短期間であそこまでの保険が必要なのか少々疑問に思う。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

単位がでない交換留学なのに、単位取得目的のサマープログラムと同じ申請書を提出しなければいけないのは、少々不思議に思った。さらに本プログラムは第二次募集のサマープログラムの中で一番期間がながいのに、単位が取得できないのは、あまり生徒たちによくないと思った。

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）

ソウル大の生徒さんたちが日本語の語学クラスをプログラムに先立ち履修していたため、私たちもそのような語学学習の機会があれば良かったと思った。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

アダプター、虫除け、バスタオル、せっけん、wifi

学習・研究について

①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等）

授業はそのトピックのおおまかな概要よりも、先生の意見を聞きたかった。また、講義よりもディスカッションの方が有意義であったと感じた。他には、スケジュールがハードすぎて、生徒たちは疲れてしまい、あまり授業に集中できていない印象が強かった。

②学習・研究面でのアドバイス

ソウル大の生徒さんたちと仲良くなり、色々な事（例：時事問題）等に関して、意見交換をするととても楽しい。

③語学面での苦労・アドバイス等

生活について

①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）

寮はとても快適だったが、シェアルームでないほうがよかった。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）

食堂も近くにあり、とても暮らしやすかった。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）

特になし

④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）

食費などはあまりかからないし、交通費は比較的安いものの、なにぶん日数が長いため、意外とお金がかかる。

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）

プログラムの告知に掲載されていた。

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）

韓国を観光するのがたのしかった。

派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）
TAの皆さんがとても良くしてくださりました。
②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）
wifiが無いのはとても困りました。他は非常に良かったです。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
ソウル大の皆さんと仲良くなり、色々と話すうちに、日韓関係で取りざたされる不仲さはほんの一部であり、実は多くの問題を共有していると感じた。さらに、韓国では、外交・国内問題についての見解・意見は世代によって大きく違うと感じた。
②参加後の予定
特になし。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
韓国ではあまり英語が通じない為、韓国語を少し学んで行くと良いかもしれない。
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特になし。
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。
特になし。

東京大学　海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2016.10.04

東京大学での所属学部・研究科等:	工学系研究科	学年（プログラム開始時）:	修士1
参加プログラム:	UT-SNUサマープログラム	派遣先大学:	ソウル大学

卒業・修了後の就職（希望）先:

	1. 研究職		2. 専門職（医師・法曹・会計士等
	3. 公務員		4. 非営利団体
✓	5. 民間企業（業界: 金融業界 ）		6. 起業
	7. その他（　　）		

派遣先大学の概要

韓国のトップ校であり、アジアの中でも知名度が高い大学の一つである。

参加した動機

プログラムに参加することで、より東アジアの政治経済に対する理解を深め、日中韓の今後について様々な方に意見を伺いたかった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

特に複雑な手続きがなかった。大学の申請書をちゃんと埋めれば申し込みができる。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

中国国籍のためビザが必要だった。ただ、申請にそれほど面倒なことがなく、3日間ぐらいでビザが下りる。

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

特に必要はなかった。

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

大学が提供してくれた保険に加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

特になかった

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）

英語での議論がメインなので英語の勉強がお勧めである。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

特になかった。

学習・研究について

①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等）

東京ラウンドとソウルラウンドに二つに分けられ、全体に3週間ほどの割と期間の長めのプログラムであった。午前中は大学で東アジアの政治経済に関する講義を受け、午後は講義の内容を踏まえ、関連する政府機関、民間企業、公共団体などに訪問し、フィールドワークをする構成となっている。今年の例を挙げると、東京ラウンドでは「アリラン在日韓国人団体」「国会議事堂」「自民党本部」「外務省」「三菱化学」「NHK」、ソウルラウンドでは「韓国国会」「サムソン」「国家博物館」「ナンタン演出」に訪問した。プログラムを通じて特に予習と復讐が要らなかったが、積極的に現地の学生と交流する姿勢が求められると感じた。とくに毎日の夜や土日はフリーなので、現地の学生と一緒にいろいろと観光したり、遊んだりしていた。全体的に大変お勧めの内容となっている。

②学習・研究面でのアドバイス

専門知識は要らないが、政治経済に興味があり、自分なりの意見を述べようとする姿勢が大事だと思う。

③語学面での苦労・アドバイス等

プログラムを通じて英語が主要言語なので、英語の勉強が必要かと思う。

生活について

①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）

大学が提供してくれた学生寮に泊まっていた。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）

特に苦労はしなかった

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）

特になし

④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）

航空券6万、その他合わせて7万ぐらい合わせて13～14万円

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）

大学から7万の奨学金が支給される

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）
フリーの時間に現地の学生と一緒に過ごした
派遣先大学の環境について
①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）
TAなどが常にいていろいろな相談に乗ってくれる
②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）
いろいろな施設が完備されていた。
プログラムを振り返って
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
プログラムに参加することでたくさんの友人ができたし、日韓のポリシー、メーカーや経済の最先端に触れることができて、大変勉強になった。
②参加後の予定
今回の活動を通じて結び得た絆をこれからも大事にしたいと思う。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
期間としては少し長めだが、とても濃密で勉強になるプログラムなのでとてもお勧めです！
その他
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特になし
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。